

アイン・ダーラ

— 聖なる神殿のおはなし —



原作：ティモシー・ホーグ

監修：谷口 陽子

作画：五十嵐あゆみ

サーリ・ジャンモ

翻訳：牧野真理子



アイン・ダーラ
—聖なる神殿のおはなし—

本書は令和3年度
文化庁
の助成をうけて刊行されました。

印刷：前田印刷株式会社

筑波大学
西アジア文明
研究センター

茨城県つくば市天王台 1-1-1





アイン・ダーラ —聖なる神殿のおはなし—

原作

ティモシー・ホーグ。筑波大学助教。専門は中近東の考古学。

作画

五十嵐あゆみ。漫画家。筑波大学大学院修了。考古学と地質学を専攻。

翻訳

牧野真理子。帝京大学文化財研究所助教。専門は文化遺産学。

監修

谷口陽子。筑波大学准教授。専門は文化財保存科学。

サーリ・ジャンモ。筑波大学研究員。専門は、中近東の考古学。





はじめに

アイン・ダーラ神殿は、シリアで発掘された最も重要な神殿の一つです。紀元前2千年紀に建てられたこの神殿は、石灰岩の床に刻まれた巨大な足跡で有名です。また、シリア・ヒッタイト（新ヒッタイト）の彫刻でも知られ、それらは前1千年紀以降も残されています。石造のライオンやスフィンクス、神話上の生き物や花模様、幾何学模様で飾られた壁などがふくまれます。

残念ながら、この神殿は2018年に破壊され、美しい建築物や彫像類の多くが失われてしまいました。本書が、人類の歴史に欠かせない役割を果たしたシリアの貴重な遺産のひとつに光を当てることになればと願っています。アイン・ダーラ神殿は、シリアの文化的記憶の一部であり、特にアフリン地域の人々にとって重要なものです。それゆえ、私たちは本冊子を彼らに捧げます。

謝辞

本書の刊行にあたり文化庁からの支援に感謝申し上げます。また、本書籍においてアイン・ダーラ遺跡の写真の使用を快く許可して下さった日本西アジア考古学会員、とりわけ青木繁夫氏、林俊雄氏、下釜和也氏に対して、御礼申し上げます。





アイン・ダーラ
—聖なる神殿のおはなし—



アイン・ダーラはシリアのアレッポ県のアフリン渓谷にあった、青銅器時代の終わりごろから鉄器時代にかけて営まれた、どこにでもあるような町の一つでした。そこは普通の人々のための場所でした。権力者や、大金持ち、有名人も住んでいませんでした。小洒落た場所も、大きな家もありませんでした。神殿だけが、アイン・ダーラの町で特別なものでした。

神殿は、とても古いです。おそらく、3500年以上も前に建てられました。最初に建てられたのがいつだったか、誰も覚えていません。なぜなら、アイン・ダーラの人々は、文字に残さなかったからです。





もともとは、神殿は泥のレンガで作られましたが、後になって、石の板で覆われました。神殿には装飾がありませんでしたが、石の板には様々な装飾が施されるようになり、古代のシリアで最も大きな石造神殿の一つとなりました。ごく普通の町に建設されたにも関わらず、巨大な神殿でした。

神殿のような壮麗な建物は、アイン・ダーラの住民の建物とは全く違っていました。だから、アイン・ダーラの町の人々にとって、神殿はとても大切なものだったに違いありません。シリアには、似たような神殿が他にもありますが、アイン・ダーラの神殿には、一つだけ他の神殿ととても違うところがあります。アイン・ダーラの神殿の中には、石に彫られた大きな足跡があるのです。



それはそれは巨大な足跡でした。それぞれの足跡は、1メートルもの大きさに、お互いが遠く離れています。そんな大きな足跡を残すには、20m以上の身長の人でなければなりません。

人々がその足跡を見た時、それはきっと神様の足跡だと感じたはず。そして、神に比べて何と人は小さいのでしょうか。神殿にいるのは、偉大な神と小さな人間でした。

神殿は自分たちのために建てられたものではないと感じたでしょう。神殿は、人々より先に歩いた神様のために建てられました。

アイン・ダーラの人々がどのような神さまを崇拝していたかはわかっていません。神殿には、絵や字がないからです。けれど、足跡は神様がどのように歩いたか、そして自分たちがどのように従って歩いたら良いかを教えてくれます。

神殿は町の小高い丘の上にあります。人々は町から神殿へ登って行きました。



神殿の入り口には、水を湛えた大きな石のお盆があり、そこで神殿に入る前に自分たちの身を清めたようです。

お清めが終わったら、神殿の中に入ることができました。



足跡を指差しながら、親は子どもに正しい動きを教えました。



まず、入り口で両足を揃えなさい。
見てみなさい、神様のようにするのです。
いま、祈りなさい。このように右手を出して、
神様に挨拶なさい。神様は、あなたより先に最も清らかな場所に行かれてしまった。

次に、左足を踏み出しなさい。

次は右足・・・

人々は、足跡をたどれば、神様に会えると信じていました。彼らだけが、お祈りの正しいやり方と、どんな神様だったのかを知っていました。しばらくの間、アイン・ダーラの人々は、他の人々から干渉を受けずに、自分たちの神様を信仰することができました。しかし、それは長続きしませんでした。

たくさんの方が、アイン・ダーラの神殿と町の人々を支配したかったのです。多くの皇帝や王様が、アイン・ダーラの町は自分たちのものだと言ったがりました。そのため、皇帝や王様たちは、新しい宗教芸術と儀礼を神殿にもたらしめました。

アイン・ダーラの人々にとって、神殿はとても重要なものです。よその支配者は人々を支配するために神殿を利用できると考えたのです。彼らは、彼らの信仰する神をアイン・ダーラの人々に崇拝するよう命じることができれば、他のことも命じることができると思ったのです。



まず、ヒッタイト人がやってきました。彼らは、古代史の中で最も偉大な帝国の一つを作り上げました。ヒッタイトの皇帝は、帝国の首都ハットゥシャから、アナトリア、そしてシリアの全土を支配しました。





広大な土地を支配する方法の一つが、神殿を支配することでした。ヒッタイト人は、1000の神々を崇拝していました。彼らは難しい神学を研究し、複雑な儀礼を執り行いました。

彼らは、支配する場所を広げるたびに、その場所で人々がどんな神をどのように崇拝しているかを、注意深く研究しました。そして、支配されていることを人々にわからせるために、礼拝の仕方を変えようともしました。

ヒッタイト人がアイン・ダーラの神殿を見つけたとき、「しめた！」と思ったことでしょう。彼らは、そこにアナトリアの神々の石像をおいて、これまでのアイン・ダーラの神ではなく、アナトリアの神を崇拝するように強いたのでした。

彼らが置いたのは、山の神シャルマ、
愛と戦いの女神シャウシュガ、そして
風の神の彫像でした。神官は、ア
ナトリアからやってきた神々がどの
ようにシリアで崇拝されるべきかを
説明しようと努めました。

彼らは儀式で使うヒッタイト言葉を
アイン・ダーラの人々に教えました。



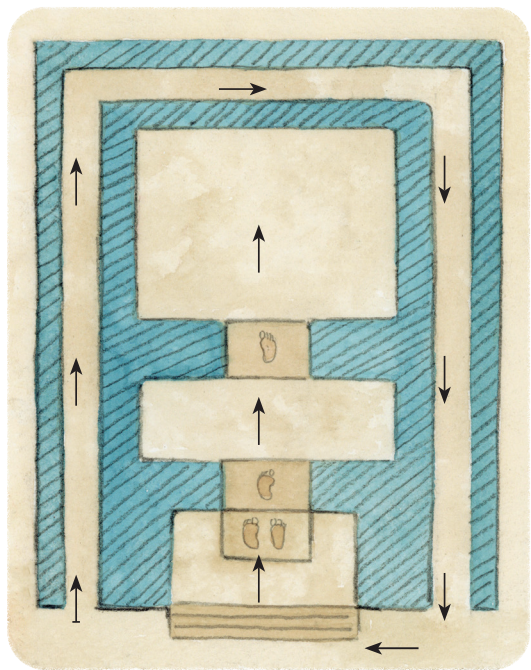
次に、新ヒッタイトの王国のウムクがやって来ました。

ヒッタイト人がシリアから姿を消すと、たくさんの小国が、領土と伝統を求めるようになりました。ウムクの王は、ヒッタイトの名前を使いました。



彼らは、ヒッタイトの聖なる言葉である、ルウィ語を話しました。そして、ヒッタイトのように、新ヒッタイトの人々は神殿を占拠し、神殿を中心により広大な領土を支配しようとしていました。

彼らはアインダーラに来て、再び神殿の姿を変えました。首都クナルアにあるような円柱の列柱回廊（ポルティコ）を建てたのです。神殿の周囲にはスフィンクスやライオンの回廊を新たに設け、人々が回廊を歩いてから神殿に入るようにしました。



新しい装飾の中央には、王様の像が建てられました。そして、誰も読むことのできないルウィ語の碑文が立てられました。新ヒッタイトの人々は、それを読み上げ、神殿での礼拝の仕方を民衆に教えたのです。



**Zati-pa-wa kuisa awita
massani izziyuna, awas
hawin karatu!**

(神を崇拝しようとする者には、羊を
生贄に捧げさせなさい！)



新ヒッタ
イト人

何て言ってるの？

静かに！
神様を崇拝して
いるよ！



でも、彼らは間
違った道を歩い
ているよ！



次に、アッシリア人がやってきました。ヒッタイト人が姿を消してから、450年ほど後に、アッシリア人は、ヒッタイトよりさらに大きな帝国を作り上げました。イラクの北から支配し、西アジア全域に広がりました。ウムクを征服し、アイン・ダーラを破壊しました。アイン・ダーラの人々を含むウムクの王たちが支配するすべての人々に、アッシリアの王とその神々への忠誠を誓わせました。アッシリア人もまた、人々に誰をどのように崇拝すべきか命じることができれば、他のことも命じることができると思ったのです。



そのため、土地の人々全員に対して、新しい儀式を作りました。祭壇の前に立ち、アッシリア人は人々に儀式で話すための新しい言葉を教えました。



やがてアッシリア人たちも征服され、帝国が崩壊したことにより、シリアのたくさんの町々が影響を受けました。おそらくアイン・ダーラの人々もその時にいなくなってしまったのでしょう。



後に、町には人が住み着きましたが、以前の歴史は忘れられてしまいました。もとの街の中で残されたものは、ヒッタイトの彫刻と新ヒッタイトの美術と碑文で埋め尽くされた古いシリアの神殿だけでした。そしてそこには、足跡も残されていました。神々は多くの時代を生き抜き、神殿を3000年間にわたって歩いていたように見えます。



ギリシャ人とローマ人はアイン・ダーラに残された巨大な石の足跡が何を意味するのか解き明かそうとし、現代の学者もまた、その意味を追究しています。私たちは、古代から残されてきた様々な断片を丁寧につなぎ合わせることによって、現在シリアの文化的記憶の一つである、古代アイン・ダーラの物語を紡いでいくことにしましょう。













2022